

導入事例

フルHD対応
モバイルディスプレイ
LCD-YC171DX新庁舎移転を見据えた市役所での働き方改革に
モバイルディスプレイを活用したフリーアドレス環境との調和

北海道登別市では、令和8年度に予定されている新庁舎移転を見据え、職員の働き方改革を段階的に進めています。その一環として、モバイルディスプレイを試験導入されました。導入の背景や使い方、職員の反応について、実際に中心となって取り組んでこられたご担当者の皆さまにお話を伺いました。

導入商品

スタンダー型17.3型フルHD対応
モバイルディスプレイ
LCD-YC171DX15.6型フルHD対応モバイルディスプレイ&
スタンドセットモデル
LCD-YC162HX事例全文は
Webにて公開中!

きっかけは職員の声と新庁舎移転のための企業視察

—— モバイルディスプレイ導入のきっかけは何だったのでしょうか。

松井様: 私たちDX推進グループでは、庁内で使用するパソコンなど各種機器の管理や貸出、設定などの相談に対応する業務を担っています。また、全庁的な業務改善の相談にも関わっています。

松井様: もともと「業務効率化のためにモバイルモニターを導入したい」という声が庁内からありました。デスクトップモニターとノートPCを繋いで、2画面で業務している職員も多く、モバイルディスプレイを導入できれば、よりスマートに仕事ができるのではと考えたのが出発点です。

有馬様: 加えて、新庁舎建設に向けて先進的な企業のオフィス視察を行ったことが大きなきっかけでもありました。多くの企業がモバイルディスプレイを活用してフリーアドレスでの柔軟な働き方や執務空間の省スペース化を実現しており、「行政でも取り入れられるのでは」という発想が生まれました。



導入前の課題

- ・業務効率化のためにモニターを導入したいという声があった
- ・新庁舎移転に向けて、より効率的なオフィス環境を模索していた



導入後の効果

- ・データを見比べるといった作業がしやすくなった
- ・モバイルディスプレイで、フリーアドレスと親和性の高い柔軟なワークスタイルに



導入後、多くの職員へモバイルディスプレイの利用が拡大

—— 導入後の反応はいかがですか？

松井様: データを見比べるといった作業も多いので、そういった際にもう1画面あると作業がしやすいという声が多いですね。執務空間を見ていただいで分かるように、今は多くの職員がモバイルディスプレイを利用しています。貸出は庁内のグループウェアを活用し、予約制で運用しており、多くの予約で埋まっている状況です。

有馬様: フリーアドレスを採用しているので、職員は決まった自席や事務用品などを入れる引き出しがなく小型バッグ1つに自分の荷物を入れて持ち運ぶ運用としており、モバイルディスプレイはこの柔軟な働き方スタイルとも相性が良いアイテムの1つと感じます。最終的には一人一台をバッグに入れて持ち運び、どこでも効率的に働ける環境を整えることができなかなと考えています。

—— 実際に業務効率化は実感されていますか。

有馬様: 導入段階で業務効率がどれほど向上するかとイメージを膨らませながら検討を進めましたが、まずは“スモールスタート”として最低限の台数で運用を始めてみました。理由は、いきなり全員分導入するよりも、「いいな」のニーズが高まるのを見ながら段階的に増やしていく方が、導入効果が見えて良いと考えたからです。結果的に、台数を増やしてほしいという声が出てきており、確実にモバイルディスプレイを活用した業務効率化につながっていると感じています。



取材にご協力いただいたご担当者様

登別市総務部DX推進室
DX推進グループ 総括主幹

有馬 亮太 様

登別市総務部DX推進室
DX推進グループ

松井 駿介 様

登別市総務部DX推進室
DX推進グループ 主査

側 翔平 様



CLIENT DATA

導入機関／

北海道登別市役所

所在地／

北海道登別市中央町6丁目11番地